

わがかわ

No.19

1980年10月



財団法人

鹿児島市動物公園協会

動物園と或る記者

鹿児島新報社編集局長 床波 昇



昭和の初め、アメリカで発生した大恐慌が日本を襲い、国中が不景気風に覆れていたころの或る日。季節は、今よりちょっと遅い晩秋ごろだと思って下さい。

駆け出しの新聞記者が一日中、取材に回ったけれど、何も書くことがない。休業時代の記者は、まだ「キシャ」でなく「トロッコ」と呼ばれますが、トロッコ時代は、誰でも、こんな経験をするものです。

さあ、日は暮れてくる。社に帰らなければならない。重い足を引きずりながら、坂を上がり、ふと気がつくと上野動物園の垣根の破れがある。さて一服するかと入りこんで、ベンチに座り、囲りを見回すと、あっちこちに失業者風の男たちが、ぼつねんと、あるいは首うなだれて、たそがれの日に照らされている。

そこで頭のいいトロッコは、「不景気と失業者と動物園」という三題話を思いついた。今度は颯爽と社に上がり、うさん臭げににらみつけるデスクに尻を向けて、でっち上げたのが、「不景気になると動物園に行く人が多くなる」という囲み記事。

幸いにしてというか、不幸にもというべきか、その日は、社会面の目玉になるような記事が何もなかった。まんまと乗せられたデスクは、三面の真ん中に、でかでかと、これを出してしまった。これにまた乗せられたのが当時、飛ぶ鳥おとす勢いの菊池寛先生。その日締め切りの雑誌のコラムに、そのまま紹介。

翌日の新聞を見て、驚いたのは書いた本人である。デスクの目を隠れて、動物園に電話、「本当に入園者が増えていますか」と聞くと「そんなことはありません」と素っ気ない返事がかえってきた。

翌月の雑誌を見て、更に驚いたが、今度は出版界（当時はマスコミとは言わなかった）の帝王を担いで「ザマをミロ」と快哉を叫んだ。このトロッコは、やがて、全国に名を知られる大記者に成長したのである。

(鹿児島市動物公園協会理事)

表紙

フンボルトペンギン (Humbolt's penguin)

ペンギン目 ペンギン科

南アメリカの西岸に沿ってチリからペルーにかけて生息し、身長は60cm前後で、17種類いるペンギンの中でもっとも小さい仲間属する。飛ぶ力は全くなく、陸上での歩き方はユーモラスである。1～3個の卵を産み、ふ化日数は42日で平川動物公園でも今まで10羽ぐらいふ化している。ペンギンの種類は全て南半球に分布している。

▼行事

10月19日～11月24日 秋の動物公園まつり

きりんの名前募集

ネット工作大会

動物写真コンクール作品募集

10月26日 動物愛護作文表彰式

11月2日 動物ぬいぐるみ撮影会

*

飼育動物数(昭55.9現在)

ほ乳類	78種	388点
鳥類	77種	633点
は虫類	4種	10点
計	159種	1031点

あまみのくろうさぎの生態研究

10頭が仲間入り



国の特別天然記念物で生きた化石といわれる「あまみのくろうさぎ」が環境庁と文化庁の許可を得て、平川動物公園で飼育されることになり、昭和55年7月16日、10頭が新しく仲間入りしました。

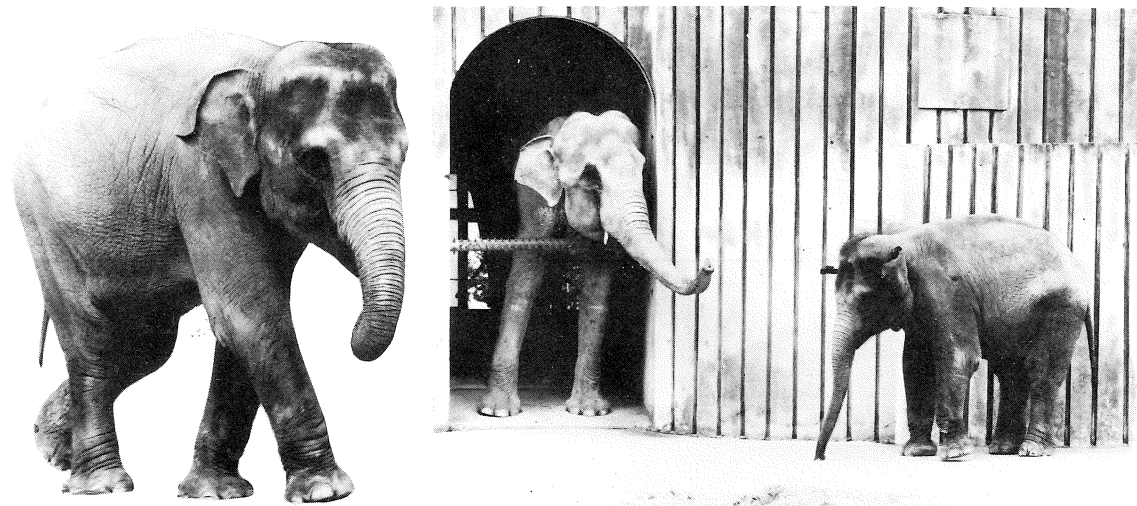
「あまみのくろうさぎ」は奄美大島と徳之島にだけ生息し、ふつうの「かいうさぎ」よりひとまわり小さく体長45～50cm、体重約1.5kgで、耳と後あしが短く、毛は荒くて黒かった色で歯の構造に特ちょうのある夜行性のうさぎです。

大正10年に国の天然記念物に、そして昭和38年には特別天然記念物に指定されて保護された結果、生息数が増えているということはわかっていますが、まだまだ未知の部分が多い動物です。

「あまみのくろうさぎ」と同じ「むかしうさぎ亜科」に属するのは、メキシコの「メキシコうさぎ」と南アフリカの「あかうさぎ」だけです。

平川動物公園では食性、家族構成、繁殖時期、なわばりの有無などの実態を調査し、飼育下における繁殖までもっていく計画です。動物園関係で飼育されるのはもちろんはじめてであり、その生態解明に張り切っているところです。

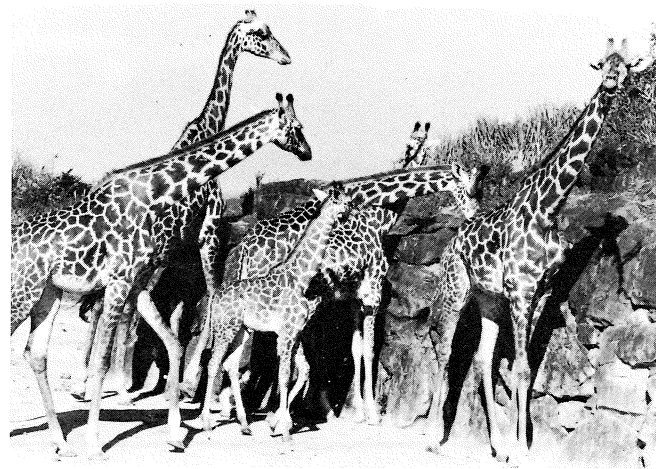
ようこそ パクちゃん!



昭和55年9月12日、体高2m、体重1.5トンのインドゾウのパクちゃんがフェニックス自然動物園（宮崎市）からお嫁入りしました。

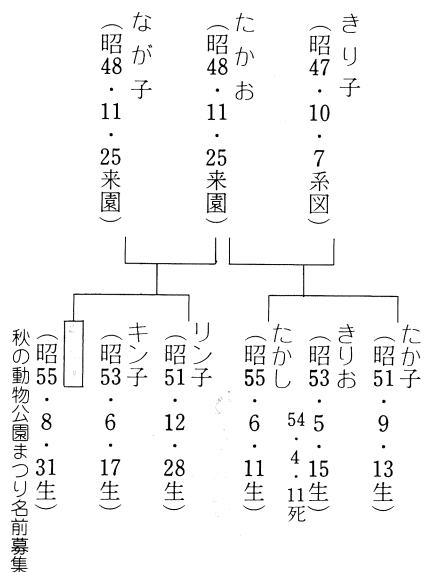
花むこのドム君は昭和26年7月、めすのタイ子と一緒にはるばるインドから鹿児島にやってきましたが、昭和34年5月結核でタイ子に先立たれ、昭和35年9月カン子がカンボジアから来園しましたが、今年2月腸炎で死んだため3度目のお嫁さんをもたらしたわけです。今度こそ二世たん生の夢を実現してほしいものです。

まだからだの大きさが親子ほども違うので、しばらくの間は同居することはできませんが、子供たちの人気ものになることでしょう。



昭和55年6月11日と8月31日にキリン一家にそれぞれ身長180cmの雄の赤ん坊がたん生しました。6月生まれのは夏休みに名前を募集した結果「たかし」と決まりました。これで雄3頭、雌5頭の大家族になりました。

きりんの系図



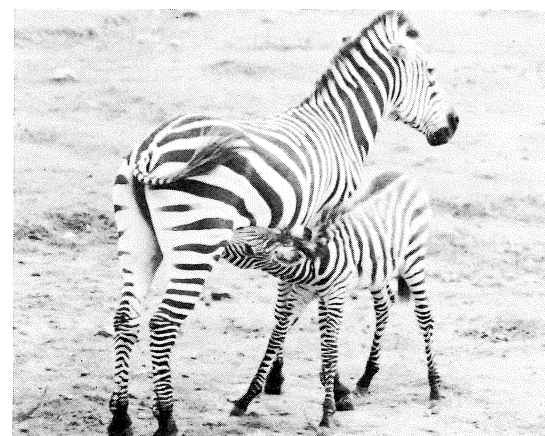
ハイ! 担当は私です



▲クロヒョウ

動物公園勤務は2年ちょっとでまだ新人です。これは生後3ヶ月のくろひょうの子どもですが、そろそろ私の手にもおえなくなる頃です。このくろひょう親子のほか、ライオン、とら、ジャガーなどのいわゆる猛獣類が担当ですので毎日気が許せません。このうちとらだけがまだ当公園で繁殖したことがないので、ぜひ私の手で二世たん生をと張り切っています。

飼育係 庭田 四郎 技師



▲しまうま (昭55.7.14生)

おすの甘えん坊。しまうまは合計8頭。



▲きりん (昭55.6.11生)

たかしの名前をもらった美男子。

第8回 夏休み動物スケッチ大会入賞作品

市長賞 「ライオン」



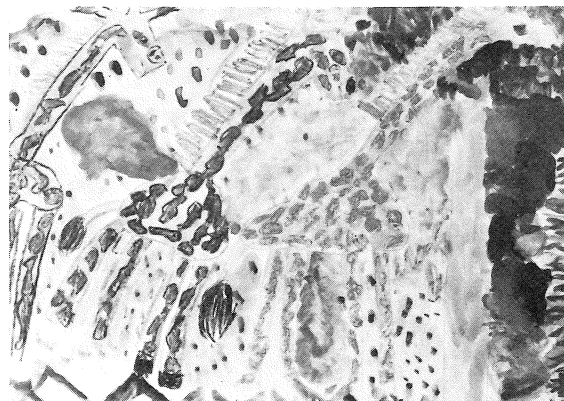
鴨池幼稚園 (4才) 有村一喜くん

市教育委員会賞 「さんけい」



武岡小 6年 榎園哲也くん

日動水協会賞 「キリン」



西田小 2年 平山 かつみくん

動物公園長賞 「くじゃく」



武岡小 3年 永田 みな子さん

市議会議長賞 「やぎ」



中山小 1年 吉元・雄二くん

金賞

- 和光幼稚園 (6才) 中山しげゆき
- 川上小 1年 杉尾 葉子
- 西田小 2年 山村 英彦
- 小山田小 3年 夏迫 公治
- 西田小 4年 永倉 美紀
- 武岡小 5年 中間 紀子
- 紫原小 6年 今村 公洋

学校賞

- 鹿児島市立西田小学校
- 鹿児島市立武岡小学校

ミニニュース



▲昭和55年5月27日、姉妹都市交換生として来鹿していたオーストラリア、パース市のセントバード高校生ら12人が平川動物公園を訪れ、親善友好の記念にユーカリと鹿児島市の木であるくすの木をオーストラリア園のオオカンガルーの放飼場に植樹しました。

▶昭和52年10月、アメリカの国際ツル財団へ繁殖のため貸し出された平川動物公園のソデクロツルは、産卵するもののヒナのたん生までいかず3年間の契約期間の切れる10月に契約更新を行ない、なおしばらくの間は数少ないソデクロツルの繁殖のために頑張ってくれるでしょう。



▲動物愛護週間中の9月23日、鹿児島市中学校弁論大会で最優秀賞に輝いた鹿児島市立西紫原中学校1年生の有木孝子さんが1日園長をつとめました。動物好きの有木さんは米山園長から辞令を受け、園内巡視後、同日行なわれた動物慰霊祭で、弔辞を読んで大役を果たしました。

▶オーストラリアからのコアラの輸出が9月10日、47年ぶりに解禁されましたが、コアラ受け入れを望んでいる鹿児島市は早速、市の東京事務所を通じてオーストラリア大使館にコアラの輸出要請をしました。平川動物公園に植えられている4千本余りのユーカリの中にはすでに5mに成育したのもあり、コアラ誘致の夢も少しずつ現実化しつつあります。



動物公園の顔



◀ヒマラヤぐま (Himalayan Black Bear)

食肉目 くま科

つきのわぐまの一亜種で、つきのわぐまのうちヒマラヤ山系に生息するのがヒマラヤぐまと呼ばれる。胸から肩にかけて幅広い三日月形の白斑があり、首の横からほおにかけてたてがみ状の長毛がある。ふつう1産2子で、成獣になるのに約3年かかる。木登りや泳ぎもうまく単独でくらすことが多い。つきのわぐまの仲間は広くアジアに分布しているが寒い地方のものだけが冬眠する。

わかりますか？ 鹿児島方言の動物名

スアイ (あり)

アマメ (ごきぶり)

オンガメ (かまきり)

キンコツ (てながぐも)

ヌシコツ (あしながぐも)

ヤッデコ (いえたなぐも)

ケゴ (かいこ)

シタメ (しらみ)

フ (かめむし)

プト (あぶ)

ヘゴ (うじむし)

ボイ (とんぼ)

テノイオ (たい)

ガネ (かに)

クツ (いしがめ)

タビナ (たにし)

チャンブツ (ふぐ)

トンキュ (やりいか)

ドンコビツ (がまがえる)

ダンマエツ (てながえび)

アヒイ (あひる)

イシタツ (せきれい)

キツノトイ (きじ)

クロドイ (くいな)

トッコ (ふくろう)

ハナシ (めじろ)

メジロ (ほおじろ)

ヤボシツ (やましぎ)

デッチィ (うぐいす)

コッテンベブ (おすうし)

サイ・ヨモ (さる)

ダノツ (たぬき)

モマ (むさび)



◀ 休養広場

フライングケージ上の小高い丘がけずりとられ、現在休養広場として芝張り、植栽などの工事が行なわれています。広さは7,000平方メートルですが、今までこのような広場がなかったので遠足の時など精一杯走りまわって下さい。

昭和56年2月完成の予定です。

表紙題字

鹿児島市長 山之口安秀

ひらかわ No.19 昭和55年10月1日発行 第19号

発行所 鹿児島市動物公園協会

〒891-01 鹿児島市平川町5669-1 ☎0992(61)2326~8

発行者 山之口 安秀

編集者 米山 昇